

第2回岩手県総合計画審議会 若者・女性部会

(開催日時) 令和8年5月15日(金) 10:00~12:00

(オンライン開催)

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 部会長及び副部会長の互選について
 - (2) 意見交換(テーマ:一人ひとりの希望の実現について)
- 3 その他
- 4 閉会

出席委員

牛崎志緒部会長、佐藤柗平副部会長、櫻井陽委員、山影峻矢委員、山屋理恵委員
吉田知世委員

欠席委員

西條匡杜委員、藤瑠杏委員

1 開会

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから岩手県総合計画審議会第2回若者・女性部会を開催いたします。私、政策企画課の菊池と申します。しばし進行役を務めさせていただきます。改めまして、よろしくお願いいたします。

まず、審議会の開催に当たりまして、会議の成立について御報告いたします。本日は委員8名のうち6名の御出席をいただいております。委員の半数を超えておりますので、若者・女性部会運営要領第6条第2項の規定によりまして、会議が成立していることを御報告いたします。

本部会でございますが、若者や女性の視点から本県の現状や課題、今後の取組の基本的な方向性等について御議論をいただき、県政の推進に生かしていくことを目的として設置しているものでございます。委員の皆様から忌憚のない御意見を賜りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、開催に当たりまして、県の中里企画理事から御挨拶申し上げます。

○中里企画理事 4月から企画理事を務めております中里と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は皆様お忙しい中、第2回若者・女性部会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。そしてまた、日頃より本県施策の推進に御理解と御協力を賜りまして、重ねて御礼を申し上げます。

本部会でございますが、若者や女性の皆様の視点から人口減少社会における岩手県の今後の在り方ですとか、進む方向について御意見をいただく重要な場であると捉えておりま

す。昨年12月に第1回が開催されておりますが、第1回の部会ではアンコンシャス・バイアスの事例ですとか、人口減少を前提とした社会の在り方など、これまで得られてこなかった非常に重要な視点から様々な御意見を頂戴いたしまして、大変貴重な機会となったと考えております。

本日は、事務局から前回の振り返り、そして県の現状、課題などについて御説明をさせていただきますまして、それが皆様の実感とどのように重なるのか、そしてどのような違いがあるのかなど率直に御意見を頂戴できればと考えております。

また、テーマも設定しておりますので、テーマに基づいた意見交換もお願いしたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 次に、議事に入る前に本部会と本日の審議の概要等について御説明いたします。

○五十公野政策企画課主任 それでは、政策企画課の五十公野と申します。よろしくお願いいたします。

資料につきましては、4ページを御覧ください。本会の設置の目的ですけれども、先ほども御説明があったとおり、若者や女性の視点から本県の今後の取組の方向性などについて議論いただき、得られた意見を踏まえ、県の計画の策定やその推進に生かしていきたいと考えております。構成につきましては、2ページの委員名簿のとおりとなります。

今後の予定ですけれども、本日は第2回として、「一人ひとりの希望の実現」をテーマとしております。第3回では、本日の議論も踏まえ、「希望が実現できる社会」の在り方などについて議論いただき、第4回のまとめにつなげていきたいと考えております。

続いて、5ページをお願いいたします。本日の審議の進め方ですけれども、議事の1つ目としまして、部会長、副部会長の互選ということでそれぞれ選出いただきます。議事の2つ目は、本日のテーマに沿った意見交換になりますが、意見交換の前に事務局より前回の議論の振り返りや今後の議論の論点などについて御説明いたします。

本日の進め方については以上となります。

2 議事

(1) 部会長及び副部会長の互選について

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 それでは、ただいまから議事に入ります。部会長選出までの間でございますが、私が議長役を務めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 それでは、部会長選出までの間、私が議長役を務めさせていただきます。

議事の(1)の部会長及び副部会長の互選についてであります。資料2として配付しております若者・女性部会運営要領第4条第1項及び第2項の規定に基づきまして、部会

長1人、副部長1人を互選により決めさせていただきます。

互選の方法でございますが、事務局から提案させていただく形でもよろしいでしょうか。

(異議なし)

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 それでは、事務局の案といたしまして、こちらから御推薦させていただきたいと思いますが、事務局といたしましては前回に引き続きまして、部会長を牛崎志緒委員に、そして副部会長を佐藤柗平委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 ありがとうございます。それでは、部会長を牛崎委員に、副部会長を佐藤委員にお願いいたします。

牛崎部会長、御挨拶お願いいたします。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます、御同意いただきまして。先ほどちょっと無音になってしまったので、ちょっとドキドキしていましたが、どうぞ昨年度に引き続き務めさせていただきまして、本日のテーマも非常に楽しみなテーマでございましたので、皆様の御意見伺うのも大変楽しみにしております。どうぞよろしくをお願いいたします。

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 ありがとうございます。

それでは、これ以降の進行につきましては牛崎部会長にお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

(2) 意見交換 (テーマ：一人ひとりの希望の実現について)

○牛崎志緒部会長 では、引き続きよろしくをお願いいたします。

それでは、議事(2)の意見交換ですね、本日のテーマが「一人ひとりの希望の実現について」となっておりますけれども、こちらに入っております。

初めに、事務局から御説明をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○五十公野政策企画課主任 それでは、意見交換に入る前に県の方から少し説明をさせていただきます。

それでは、資料3でもって説明させていただきますので、9ページを御覧ください。まず、昨年12月に行いました第1回の部会の議論の振り返りをさせていただきます。次に、それを踏まえた今後の議論の論点について、最後に県が認識する現状・課題などについて説明をさせていただきたいと思いますが。

それでは、10ページをお願いします。前回の部会では、幸福、仕事、家族・子育てなど幅広い視点から御意見がございました。ここでは、いただいた御意見の中でも共通する観点やキーワードについて、青や赤のマーカーで着色しておりますので、その部分を中心に

御説明いたします。

仕事関係では、企業の人手不足やキャリア人材の受入れの際の体制整備の難しさであったり、フルリモートワークによる居場所を選ばない仕事の仕方などについての御意見がございました。

家族・子育ての関係では、県の取組を聞いて子育て環境が魅力的であると感じる一方、正直あまり知らなかったなどの率直な御意見をいただいたところです。

移住・定住関係では、若いうちは県外で働き、個人が希望するタイミングでU・Iターンをしやすいするなど、懐広く捉えた方が将来的にも岩手を選択しやすくなるといった御意見もございました。人口減少の観点では、人口減少を前提とした縮小しながらも充実させていく、いわゆる縮充のアプローチの重要性についての御意見もございました。

ジェンダーギャップの関係では、ジェンダーギャップの解消という視点が県の取組全体にかかっていること、それが岩手の強みであるという評価があった一方、無意識の偏見、いわゆるアンコンシャス・バイアスに関する取組はまだ周囲に行き届いていないといった御意見がございました。

メッセージ性に関してですけれども、県の取組に関する表現の仕方などについて御意見がございました。

そのほか岩手に戻らない、就職しない理由としまして、まず今は自分がやりたいことができる場所でやりたいことをするという段階であり、将来的にどうするかは仕事や周囲の環境次第などといった御意見がございました。

続いて、14 ページをお開きください。こちらは、本日以降の議論の土台とするために前回いただいた御意見に共通する事項を整理したものでございます。今後の議論の論点としては大きく5つに分けられ、希望の後押し、つながりの拡大、変化に適應するアプローチ、これらについては今後の方向性に関する観点となり、情報等の接点、メッセージ性については今後の取組の推進に必要な観点と捉えております。これらについては、今年の2月に行われました県の総合計画審議会においても御説明差し上げたところでして、委員の方からは総合計画審議会の意見にも共通する部分があるといったことや、若者・女性のリアルな声が聞けてとてもよかったなどの意見があったところです。

次に、15 ページをお願いします。今後の全体像としましては、この後の議論の論点となる希望の後押し、つながりの拡大、変化に適應するアプローチといった今後の方向性に関する観点を中心に本日の第2回では個人が希望をかなえるための選択肢であったり、その選択を阻害する要因などについて議論いただき、次回の第3回ではその個人の希望をかなえるための社会の在り方や課題解決のアプローチなどについて議論いただきたいと考えております。それらの議論の踏まえ、第4回で取りまとめを行い、今後策定する県の計画などに反映していきたいと考えております。

続いて、16 ページをお願いします。ここから本日のテーマにも関連する本人の希望でありますとか、前回の意見に関連する項目について分野を分けながら、県が認識する現状や課題などについて説明させていただきます。まず、「家族・子育て」分野では、合計特殊出生率の低下が続く中、結婚や子育てに希望を持ち、安心して子供を生み育てられる環境づくりに向けて結婚支援、そして妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援が必要であるという点であったり、結婚したいと願う県民個人個人の希望をかなえるため、結婚サポー

トセンター i サポの新規会員の確保や会員の年齢構成、男女比のギャップを解消しながらマッチング支援の取組が必要であるという点が挙げられております。このほか価値観やライフスタイルが多様化する中で、子供、若者が主体的に将来を選択できるように、将来について考える機会をつくる、そしてそれぞれのライフステージに応じたライフデザインの構築への切れ目のない支援が必要であることなどが挙げられております。

次に、17 ページです。教育分野ですけれども、少子化や人手不足など多様化する地域課題に対応するため、産学官が一体となった連携が必要であるという点、また地域では少子化や学校行事の精選によって、子供が地域と関わる機会が減少しておりまして、自分の住む地域を好きだと思える児童生徒の割合も伸び悩んでいるということで、郷土の誇りや愛着の醸成に向けた取組が必要であると考えております。そのほか大卒者の県内就職率は伸び悩んでおりまして、地元定着につながるような進学、就職、人材育成の促進が必要といった点が挙げられております。

次に、18 ページです。「仕事・収入」分野ですけれども、多様な働き方の広がりをつかまえて、経営人材や若者の育成を進める一方で、開業率は全国平均を下回っていることから、新たな経営人材と起業者の増加を図る必要があるという点、また東京への一極集中が継続しており、U・I ターン就職者数は計画どおりになかなか進んでおらず、地域の担い手不足が進んでいることから、若者や女性を中心とした人材確保の強化が必要であるという点、そのほか労働時間の長さや賃金水準の低さに加えて、若者や女性などに選ばれる職場づくりが課題となっているため、働きやすさや働きがいの向上であったり、ジェンダーギャップの解消という観点が必要であるということが挙げられております。これらにつきましては、県が認識する現状、課題などの一例とはなりますけれども、今後議論を進める上で委員それぞれのお考えと重なる部分あるいはギャップがある部分などがあれば御意見をいただきたいと思っております。

そのほか委員の皆様様の周囲の方も含めて個人の希望の実現がなかなか難しかった御経験であったり、それぞれが仕事やプライベートなどにおいて岩手とどう関わってみたいか、さらには県外とのギャップなどについても御意見いただけると幸いです。

県からの説明は以上となります。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。

それでは、今事務局からの御説明をいただきましたけれども、この御説明の中で御質問等がありましたら委員の皆様から挙手をいただいて、御質問を承りたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。前回から少し時間がたちましたので、振り返りしていただいてよかったですと思いつつも、皆さん思い出してきましたか。いかがでしょうか。

(質疑なし)

○牛崎志緒部会長

それでは、早速ここから議事に入ってまいりたいと思います。本日お二人御欠席されているわけですけれども、事前に資料を頂戴している方もいらっしゃると思いますので、そういった資料も御覧いただきながら進めていきたいと思いますが、では本日「一人ひとりの希望

の実現について」というテーマに入る前に、せっかくの機会でしたので、委員の皆様からお一人ずつ第1回の御意見の振り返りですとか、今事務局から御説明があった課題認識について、お一人お一人お考えをお話しただきたいと思っています。

名簿順になりますので、西條さんは今日お休みでしたので、櫻井さんから大体5分程度でしょうか、御発言を頂戴したいと思います。櫻井さん、佐藤さん、山影さん、山屋さん、吉田さんの順番にお話をいただきしたいと思います。

では、櫻井さんよろしいでしょうか、お願いいたします。

○櫻井陽委員 ありがとうございます。一般社団法人いわて地域おこし協力隊ネットワーク理事の櫻井と申します。

内容は、結構テーマが多岐にわたるので、ちょっと意見を絞ってお伝えしたいと思うのですが、まず教育の部分のところで、希望が持てる岩手というところを考えているところだと、小学校、中学校、高校という部分で、大学の時点で県外に進学される方が多いのかなと思いますので、そこまでの間に自分の親と先生以外の人にどれくらい会えるかどうかというのはUターン率とか、そういったところに関わってくるなと思っていますので、あとはその人のキャリアがどれくらい広がるかというのも親と先生以外の人にどれだけ会ったかということが大切かなと思いますので、このキャリア教育の充実みたいところは徹底してやっていけたらいいなと思っていますところ。

ただ、一方で教育に対しての予算が少ないような気がしております、その関わりたいと思っても関われなみたいな部分もちょっとありまして、高校生と関わる機会を頂けるのはありがたいのですが、結構時間も取られる部分もあったりとかしまして、ちょっとこれは言いつらい部分もありますけれども、大人が関わりやすい環境づくりみたいところが岩手県全体の課題なのかなと思っています。特に探究学習等もボランティアで様々な方々が関わっていると思うのですが、ボランティアでできる部分とできない部分があると思いますので、その辺の予算の充実などが今後あるといいのかなと思っています。

仕事と収入の部分のテーマに関しては、仕事の種類が豊富であるということがやっぱり大事かなと思っていますので、そういう起業者の育成というか、あとは企業内の第二創業みたいところで、新しい部署を立ち上げたりとか、そういったのを促進していくような取組が必要なかなと思っています。ただ起業者を増やすというところでもいきなり起業を志す人も中にはいると思いますが、そういう社会課題に取り組もうという活動とか、今いわて若者カフェとか、そういった取組の中で大学生とか、高校生もしくは社会人の方々が活動に様々取り組んでいらっしゃると思いますが、そういった活動が広がっていくことで、その中でマネタイズするために起業という考え方が出てくるのかなと思いますので、そういういきなり起業というところではなくて、もう少しベースとなる土台をつくっていくところに力を入れていくのもいいのかなと思っています。

様々テーマが多岐にわたるので、まとまってないかもしれませんが、そういった御意見をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○牛崎志緒部会長 櫻井さんありがとうございます。そうですね、櫻井さんのキーワード

の中で、大人の関わりやすい環境づくりといったところは、私は今総計審でもそういった御意見をお話しされていらっしゃる方もいらっしゃったので、非常に重要なポイントだと承りました。ありがとうございます。櫻井さんありがとうございます。

では、佐藤さんお願いします。

○佐藤柁平副部長 事務局の皆様、委員の皆様、いつもお世話になっております。一般社団法人いわて圏の佐藤でございます。

今回の意見、最初のちょっとお話として、ここ一、二か月ぐらい首都圏で弊社でいろんなイベントとか企画をやる中で、まさに県外に、東京に転出している20代の若い皆さんとお話をする機会というのが結構ありまして、その中で何で岩手を出たのかみたいな話が出てきたのですけれども、印象的だったのは、「誰々ちゃんあそこにいたよね」みたいなことを後から言われて、「めっちゃ見られていたんだ。」という、ちょっと監視されている、必要以上に個人に介入してくるような、ちょっと怖さとか気持ち悪さみたいなのがあったみたいで、その場の10人ぐらいの中で女性の方は7人ぐらいいたのですが、これは人によって結構感じ方が違うとは思いますが、そこに共感していましたね。岩手の中だと誰々さん「この前あそこいたよね」、「どこどこ走っていたね」みたいな、別に気にしない人もいるとは思いますが、結構世間が狭いがゆえに過度な個人干渉といいますか、ちょっと拡大解釈かもしれませんけれども、そういったところが結構みんな嫌だったという話を伺って、私もちょっと感覚が鈍っている部分があるのかもしれないのですが、そういう視点もあるのだということを実感いたしました。

ここでちょっと小さな話かもしれませんが、これを一つの事例として考えたときに、若者、女性に選ばれる岩手県というのを実現するには、行政の県庁の皆様、行政の皆様がいろんな施策に取り組まれているということは、私も重々承知しているのですが、行政がやる取組だけではなく、やっぱり岩手という社会がどう変わるかみたいなところが結構大きな要因になってくるのだろうなと考えております。その中で、民間が何ができるか、行政が何ができるか、あるいは市民活動の領域が何ができるかみたいなところになってくるのかなと思うのですが、やっぱり今後の岩手が若者、女性に選ばれる上で必要になるというのは、どういう社会変容をどのように動くか、つくっていくか。その中で、岩手県庁という組織あるいはその中における総合計画というのがどういう役割なり機能を果たし得るのかみたいなところが、この部会の中でより深まればいいのかと考えているところです。

最終的には、「みんな岩手は好きだけれども、でも」みたいな、そういうところでやっぱりどこか引っかかるのは、岩手がある種日常として今まで続いてきている社会の中に何か言葉にならなかったり、うまく言語化しにくい要因があって、その社会変容みたいなものをどうつくれるかというのが結構大きなポイントになってくるのではなからうかなということを考えていたところでございます。

そういった中で、多岐にわたる分野になると思うのですが、岩手における社会変容みたいなものがどうなったらいいのかということも今後、今日の中でもできる限り私としても議論できたらいいと思いますし、とはいえ社会が変わるといのはすごく難しいことで、やはり世代によって価値観であるとか、性別による価値観あるいは過ごしている地

域とか、お仕事の領域によっても違うと思うので、ふだん吸っている空気とか時代の空気みたいなものが違う中で、そこをどうやって乗り越えられるのか、あるいは乗り越えにくい、ちょっと一歩下がって、それを前提にどう理解し合うかみたいなのところとか、何か難しいテーマだなということのを改めて考えているのですけれども、私の今日の最初のコメントとしては、社会変容にこの総合計画がどう寄与できるかみたいなのところと一緒に考えていけたらいいかなと考えております。

ちょっと長くなったかもしれませんが、一旦私からの最初のコメントは以上とさせていただきます。

○牛崎志緒部会長 佐藤さんありがとうございました。

まさに、はっとさせられることとお話しいただいたなと思えました。言語化しにくいもやもやしたところというのはあると思いますので、そこをすごく私たちも、今聞いていらっしゃる委員の皆さんも「だよな」と思ったと思います。ありがとうございます。

では、続いて山影さんお願いします。

○山影峻矢委員 お世話になっております manorda いわての山影と申します。よろしくお願ひいたします。

前回に引き続きではあるのですが、私が県内企業ですとか、自治体様と関わる中で感じていることを踏まえてお話しさせていただければなと考えております。

まず、今回の件の課題認識については、現場感覚との大きなずれというのはないかなと感じております。特にも若者や女性に選ばれる職場づくりですとか、U・Iターンを含む人材確保、県内企業ですとか、産業を早い段階から知る機会の必要性みたいなところは非常に重要な論点ではないかなと考えております。

私の実体験として、ほかにも結婚、家庭、子育てという点に関する県の課題認識についても非常に重要なのではないかなと感じているところでございます。

結婚支援と妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援という点に関してですが、単に少子化対策として必要というだけではなくて、一人一人が将来の選択を前向きに考えるための土台になっていくのではないかと考えております。結婚したいという希望を持つ方ですとか、子供を持ちたい、岩手で家庭を築きたいという希望があってもなかなか出会いの場がなかったりですとか、仕事の両立が難しいよという方ですとか、結婚、出産への不安を抱えている方、子育てに係る経済的な負担というものが見通せないみたいなことが今の社会ではよく聞く話かなと考えておまして、その希望を現実の選択に移すことというのがそもそも難しくなりつつあるのではないかなと考えております。その意味で、結婚支援、妊娠期の支援、出産後の子育て支援、働きながら子育てできる環境づくりみたいなものがそれぞれの別の施策としてではなくて、それぞれのライフプランに沿ってつながっていること、そういう施策をつくっていくことというようなものが重要ではないかなと考えております。

一方で、ちょっとギャップに感じるころではあるのですが、施策の中でも岩手に戻る、定住するという結果だけを重視し過ぎてしまうと、若者の実感とも少しずれてしまうのではないかなと感じております。若い世代にとって、進学や就職で一度県外に出ること、こ

れ私もそうだったのですけれども、自分の可能性を広げるための自然な選択、関東に行ってみれば何かあるのではないか、自分の新しい可能性が見つかるのではないかみたいな希望を持って関東圏に出ていく子が多分大多数なのではないかなと思っておりまして、大事なのはそういった方々が戻ってきたい、そして関わりたいと思ったタイミングで岩手との接点ですとか、選択肢がきちんと見えていることなのではないかなと思っています。

例えば戻りたい気持ちがあっても、希望する仕事があるのか分からないですとか、今のスキルや経験を生かせる企業があるのか分からないですとか、あとは収入面ですとか、あとは戻ってきた後のパートナーの仕事だとか、子育て環境も含めて生活が成り立つのか、見えにくいみたいな、こういった不安がやはり重なりやすいのかなと考えておりまして、そういったところを重視していくというか、丁寧に扱っていくことが必要なのではないかなと考えております。これには自治体だけではなくて、県内企業側にも変化が必要ではないかなと思っておりまして、人材不足、県内の企業は多く人が雇用できないですとか、県外に出ていくみたいなお話をよく聞くのですけれども、経験を積んだ若い方ですとか、女性という方に選ばれる続けるためには賃金ですとか、労働時間だけでなく成長機会ですとか、あとは副業、兼業への理解ですとか、こういった新たな価値観が受け入れられる職場環境、そしてその文化が重要になるのではないかと考えております。

私自身が望む岩手の在り方というか、関わり方としては、定住だけに限らずもっと多様な関わり方が認められる地域であってほしい、あるべきなのではないかなと考えております。実際に岩手に住んで働く人ですとか、一度県外に出て将来戻ってくる人、はたまた県外に出た後に副業やプロジェクト内で岩手に関わる人、様々なパターンがあると思っております、こんな多様な関わり方を全ての岩手にとって大切な関係人口ですとか、担い手として捉える人が必要なのではないかなと考えております。なので、戻す施策だけではなくて、つながり続けるための施策を強化すること、これが重要なのではないかと考えております。

県外に出た若者に対して岩手の企業の情報の発信ですとか、プロジェクトの発信ですとか、副業案件ですとか、様々暮らしの情報みたいなものを定期的に継続的に届けて人生の節目ごとに岩手にこのタイミングなら戻ってこれるのではないかなとか、この関わり方なら岩手と関われそうだなみたいな、接点の見える化といいますか、こういったことが重要なのではないかなと考えております。

なので、目指すべき点という総論的な話にはなっているのですが、岩手で、あるいは岩手と関わりながら実現できる関係を見える化していく、そういう地域になっていくことが必要なのではないかなと考えております。

すみません、ちょっといろいろ話が飛んでしまいましたが、私からは以上です。ありがとうございます。

○牛崎志緒部会長 山影さんありがとうございます。すごくもっと聞きたくなる、そんな様々などでも大事なことをおっしゃっていただいて、戻るだけではなくて多様な関わりが認められるというところですね、どうしても私たちというのは何人戻ってきたかとか、何人定住してくれているかといったところがどうしても政策に反映される部分になってくると思いますけれども、山影さんのおっしゃるところ、非常に共感が委員の皆さんもされる

ところではなかったのかなと思いました。ありがとうございます。すごくスマートに淡々と山影さんが話されるので、山影さん自身はどんな思いを持っていらっしゃるのかともっと聞きたくなってしまいました。ありがとうございます。

では、山屋さん引き続きお願いします。

○山屋理恵委員 よろしくをお願いします。私の場合は、ジェンダーギャップの話からお話しさせていただきたいのですが、地方創生とか、岩手のことを考えたときに、一番視点が抜けていたのがこのジェンダーの視点だったと思います。全ての人の生きやすさにつながっているし、例えば子供を生んでとか、家族を持ってとか、自分の生きたい方向へといったときに、一人一人の選択がされているかどうかということが重要になってきて、この視点を全ての施策にきちんと入れていくことが、岩手に生まれてよかった、岩手を大事にしようとか、戻りたいとか、そういった誇りにつながっていくと思います。確かに外に出ることを戻すではなくて、ここに生まれたからこそここで何かできるのではないかと、今は離れているけれども、そこで何かできるのではないかと、そんなふうに思っていけるという根本的なものを全ての施策に通すと、全ての人の充実につながっていく、それは全ての人の「多様性」を確保することだと思います。多様性を確保するということは、同質性の高い地域からは新たな視点とか柔軟な発想は生まれずに、どんどんちっちゃくなっていくだけなので、やはりそういった多様性を確保していく、多様性を持つというような施策を入れていくことが岩手を大事にする、自分がここに、岩手にいるということにつながっていくというような施策になっていくと思うのです。だから、必ず結婚する、必ず子供を持つではなく、持ちたい人たちが安心して子供を持てるような施策はどんなものなのかとか、私は今こういう生き方をしたいという、それが尊重されたときに、では次にそれが実現できるのか、ということにつながっていく考え方がいいのかと思っています。

このような男女共同参画の施策を進めているところとか海外は、人口も増えています。そういう環境も整っていきます。知識とか感覚がやっぱりなかったことが今までの衰退とか、後進につながっていると、考えていただきたいです。例えば女性を労働力として期待したとしても、例えば経済的に支配したり、格差があったり、長時間労働があったり、そんなことすれば、やっぱりここで子供を持とうとか、結婚しようと思っても無理だわ、自分一人のことで精いっぱいだし、パートナーも大事にできないわと思ってしまうので、やはりそういった取組の根本があるということをやっぴ一人一人の胸に落とし込めるような言葉を県の施策の中にちりばめていただくことが一番重要なのではないかなと思っています。

あと、女性がなぜ都会に出て行って、自分たちのふるさとを選ばないのかといったときには、それはそこが好きとかというのではなくて、暮らしやすいのでもなくて、都会は物価が高いですからね、などいろんなことを考えるけれども、一番は生きやすいかどうかです。暮らしやすくて都会を選んでいるのではなくて、そこが生きやすいかどうかです。先ほど佐藤さんがおっしゃられたように、ここで暮らすとちょっと生きにくかったり、監視されているような感じがしたり、誰々ちゃん結婚したのとか、性別役割やああいふ収入で大丈夫なのとか、こうあるべきといろんなこと言われたり、そんな仕事やっているよりは手堅くとか特に若者や子どもたちにこれまでの規範を押し付けてくると、やはり一人一人

の希望の実現ということにはついていけないと思います。そのためにアンコンシャス・バイアスをなくするための意識改革の取組を今県もを中心にやっているのですが、でももう意識を変える段階の状況ではないです、この危機的状況を考えると。本当に実質的に慣習や構造に踏み込んでいろんな団体や企業やそういったところがちゃんと進めているかというようなものをつくっていくというもう段階なのだと思います。じゃないと、この生きにくさの中で若い人たちだけここで頑張ってるなんて、ちょっと本当に申し訳なくて、かわいそうで言えないと思っていますところですよ。

まず最初はそのようなことを考えながら参加させていただいておりました。よろしくお願いします。

○牛崎志緒部会長 山屋さんありがとうございます。先ほど山影さんの話から本当にそれを受け止めてくださった、何かそんなコメントを頂戴しました。やはり同質性という言葉がすごく私もそのとおりだなと思っています。一人一人が尊重される岩手であるのかどうかというところ、本当に考えさせられます。ありがとうございます。

それでは、続いて吉田さんお願いします。

○吉田知世委員 ありがとうございます。大学で岩手から出て上京して、今社会人5年目になりました吉田と申します。東京では、今岩手わかすフェスの実行委員を務めておまして、無事2月末にわかすフェスを終了して、今回こちらに参加させていただいている状況でございます。よろしくお願いいたします。

今回のこの資料を見ながらつらつらと意見を書いていた中で、先ほど皆さんがおっしゃっていたことにつながるところが多数あったので、その皆様の意見を踏まえて、私の意見を言っていければなと思っておまして、櫻井さんが最初におっしゃった大人に会う機会、学生時代に大人に会うという機会を設けるとするのは、私はすごく大事だなと思っていて、高校時代にベンチャー企業に勤めている方のトークセッションが高校で実施されたことがあって、ベンチャー企業というものがあるのだと知りました。高校のときに知っている企業といったらそれこそ公務員、銀行みたいな、有名なところしか知らない中で、ああ、県外にはそういう会社もあるんだみたいな、自分で小さい会社を起こすということもできるのだなという、結局その道には進まなかったですけども、そういう知るという機会があったのはすごく大きかったなと思っていて、なので中学とか高校で何も知らないからこそそういういろんな大人に会う機会、事前に視野を広げておくというところがすごくチャンスだなと思っていて、県の方の資料にも高校生の多くが働きたい企業は今分らないと回答しているというデータがあったとおり、それがめちゃくちゃチャンスタイムだなと思うので、そこで修学旅行で実際に例えば東京に出てきましたとか、大阪に行ったというときに、そこで会う岩手出身で会える人がいるならば会うみたいな機会を設けたりとか、だからこそその修学旅行だと思ってしまうので、そういう機会を設けてみるとか、そこの大人に会うという機会を提供してあげないと、実際には行動には起こせない年代だと思うので、そこのチャンスタイムを利用するのがいいのだろうなと感じております。

あとは、佐藤柊平さんがおっしゃっていた世間が小さいから監視されているように見えるみたいなところもすごくめっちゃ分かると思って、中学とか高校のときに楽しみにして

いたデートで同じ部活の人に会って、「うわっ、気まず」みたいなとか、そういうので多分蓄積がトラウマがあって、この間友達に聞いたのもマッチングアプリを岩手県内でしてみたら、結局知り合いの知り合いにしか出会わない、同じ地域だから。そういうのもすごくちっちゃいストレスになっていっているのだろうなというのはすごく感じて、だから県外に出ようとなるか分からないですけども、ちっちゃいストレスから県外に出ようと思っている人がいるのだなというのはすごく感じました。

あと、山影さんがおっしゃった人生の節目の選択肢として、岩手が挙げられるようにというのが、それこそさっき私がちょっとお話しさせていただいた学生時代に事前に視野を広げることもすごく伝わると思うので、節目節目の選択肢として挙げられるように岩手の知識を蓄積させるというところがすごく大事ななと思っていて、最後に山屋さんがおっしゃっていたジェンダーギャップと、あと生きやすいかどうかというところがすごく、さっき佐藤さんがおっしゃったところにもつながると思うのですが、偏りがあるかもしれないのですが、私の周りだと岩手県内に就職している子たちというのは医療従事者の看護師だったり、医師だったり、あと公務員、銀行員、自営業という、岩手でもできる方々の職業が多いなと思っていて、逆に県外に出られた方、特に首都圏に出られた方というのはベンチャーだったり、あと大企業だったり、ITだったり、岩手にはあまりなじみがないところの人たちが県外に出ているなという印象があって、岩手でもできるなら、じゃ、なじみのある岩手でやろうみたいな思考になっている子が私の周りにはすごく多くいて、となったときに生きやすいかどうかというのは、岩手でもできるなら生きやすい岩手に行こう、生活しやすいところに行こうという選択肢になると思うのですが、働きたいけれども、岩手にはないから、生きやすいかわからないけれども、取りあえず都会に出ておけばいいだろう、岩手の次に生きやすいのは東京だろうという思考になっているなど。私自身もそうだったので、岩手にやりたいことがない、じゃ、首都圏に出ていこうという選択肢になったので、結論が難しいのですが、生きやすいかどうかというところだと岩手でもできることを増やしていく、そこは働き方もそうですし、出産、結婚とかもそうですし、それから今岩手ではできないということがすごく目立っているような気もするので、岩手でもできるなということを増やしていきつつ、みんなに知らせていきつつということが大事なのだと思っております。

すみません、行ったり来たりだったのですけれども、なので学生時代のチャンスタイムをうまく利用していったらなということと、あとは生きやすいかどうかという山屋さんのお言葉をお借りして、そこで就職だったり、今後のライフプランの中で岩手を選択肢としてできるように広げていく、視野を広げていくということが大事かなと思った次第でございました。よろしくお願いいたします。

○牛崎志緒部長 吉田さんありがとうございます。すごくいいキーワードをたくさん言ってくれました。チャンスタイムというところもそうですけれども、今チャットに佐藤さんも書いていただいているのですが、家や地域を出たことで解放されたという解放感、生きやすさですね、この辺りが吉田さんがお話しなさったところとすごくリンクされるかなと思います。そこ、今日希望というところとどうリンクさせていこうかなというところ、すごくこの後のお話も楽しみになってきました。吉田さんありがとう

ございます。すごくいい、私たちまたはっとさせられるコメントを頂戴しました。ありがとうございます。

では、今日西條さんから事前に御意見頂戴していると私伺っていましたが、このタイミングで事務局から御提供いただけますでしょうか。お願いします。ありがとうございます。共有していただきました。

○五十公野政策企画課主任 皆さん共有資料、緑色の資料となりますが、西條様の事前の意見について私の方から共有させていただきます。

まず最初に論点・全体像についてということで、まず「希望の後押し」については行政が掲げるスローガンとしてはふさわしいのではないかという御意見でした。それについては、行政は住民に無理強いして地元に残ることやU・Iターン、出産などライフイベントを求めるのではなく、希望する人の願いをかなえる環境を提供する立場であるべきと考える。それは、前回の部会を通して改めて思いましたという感想でございました。

2つ目、外とのつながりについて、これが西條さんにとってはもしかしたら最重要ポイントになるのではないかということでした。情報との接点を保つ上で必要であると考えられる県外へ出た人、ふだん岩手とあまりなじみがない人ともつながれる環境をつくり続ける、先ほども同じようなコメントもありましたが、そういったつながりを保ち続ける、そうしたことが希望の後押しのアピールチャンス、そしてひいては移住、定住者が現れるのにつながるのではないかという御意見でした。

続いて、御自身の立場からの着眼点でございますが、就活中首都圏在住という2つの属性から仕事・収入の面で着目したということで、自分の立場に置き換えて移住・定住について考察をしていただきました。まず、個人的な思いということで、縁やなじみがある関東、東北地方で、西條さんは土木系の就職がしたいと。ただ、この条件で業界研究や企業調べを行っても大手の会社、誰でも聞いたことがある会社ばかり出てしまって、ほかの県外の岩手県の企業とかが埋もれてしまっているというような状況が実際にありましたということでした。ですので、岩手県内、せっきくポテンシャルがある企業があるのに埋もれてしまっているという状況なのではないかなという御意見です。また、移住支援についても、自分が調べないとなかなか情報を手に入れられないということで、こういった移住・定住の県のポータルサイトに自分から調べに行く必要があるという課題も挙げられています。

次に提案ということで、大手の就活サイトマイナビなどでシゴトバクラシバいわてのページを掲載もしくは紹介してもらうことによって、多くの就活生のまず目にとまるのではないかという点が挙げられています。また、県内志望の学生らがいる場合、県内企業とのコネクションを簡単につくれるのではないかということで、ただ就活支援サイトを掲載するだけではもともと岩手に興味がある人しか集められないといった懸念もあるということでした。

そのほか、大手就活サイトに、シゴトバクラシバいわてだけではなくて、移住支援制度の説明のホームページに実際に移住した人の声、県の説明、魅力紹介等も同時に掲載することによって、他県との差別化の強調であったり、新たな興味を持ってくる人が現れるかもしれない、そういった御意見もございました。最終的に岩手に就職してもらえなくても、

就活を通して岩手との関係人口の増加も期待できるのではないかといい、そういった御指摘もありました。「情報との接点」をより大衆的に生み出すこと、それが「希望の後押し」を広めるための条件になるのではないかといいたような御意見でございました。

最後にまとめでございますけれども、県の施策目標はまさに住民が求めるものである。そして、今後の論点にもなってくる「希望の後押し」というのは県の最大の強みにするべきだというお考え、またそれを外の人に知らせるための「情報との接点」がまだまだ足りないと個人的には感じているという御意見。そして、もっと首都圏で岩手を感じたいと一人の岩手好きとしてそういうお考えをもっているということでございます。

西條さんの事前の御意見については以上でございます。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。私、個人的に西條さんに岩手で働きたいと思ってもらえるにはどうしたらいいのだろうと思ったり、前回もした記憶がありました。西條さんありがとうございます。

では、私からも最後ちょっとお時間をいただきまして、私もつれづれなるままにお話をしてしまうのですが、皆さん御存じだと思っておりますけれども、先日「真の豊かさとは何か」ということで47都道府県で可処分所得とか基礎支出、通勤時間を比較して、岩手県というのは実はすごく幸福度高いよねというのが報道されたのですけれども、それを見て「やっぱりな」と思った県民と、「えっ」と思った県民と、もしかしていたのかなと思うのです。

私ももちろん岩手にいてハッピーなのですけれども、まさにそれを受けて岩手県の改めて幸福度指標といったところですか、あとデジ庁で今活用されているウェルビーイング指標というのがあるのですけれども、皆さん御存じだと思っておりますが、その指標なんかを見ながら、加えて私はジョブカフェいわてというところに今おりまして、企業の皆様の従業員の満足度調査をさせていただいたりですとか、あとは採用に関わる学生の声を聞くなどする中で、働きがいというところと働きやすさというところのいわゆるソフト領域と、あと環境面のハード領域、様々な企業が持つておくべき環境ですね、整えたい環境ですとか、そういったところ、あとはキャリアという側面ですね。

何かそんないろんなところの指標を少し整理を今しているところだったのでございますけれども、その中で、ちょっとふと思ったのが、先ほど「岩手県ってすごく幸福度高いよね」に対して、ちょっともやっとしたところが、我々がこれだったら幸福だろうとか、整っているだろうと思うところのいわゆる客観的な指標と、あと一人一人が若者や女性や、もちろんミドル、シニアも含めて県民が思う主観的に幸せと思うところのずれというのはあるのかなというところは少し思っていて、このずれというのは何だろう、どこにずれているところがあるのかなとか。あとは、先ほど山影さんもおっしゃっていましたが、希望を現実の選択肢に移すというところで、確かにこういう生き方をしたいとか、こうありたいと思っている人も実はそこまで多くない。もちろんもっとお金が欲しいとか、もっと寝たいとか、もっとおいしいものを食べたいとか、そういった世俗的なところはみんな持ち合わせてはもちろんいると思うのですけれども、こうありたいとか、こんな生き方をしたいという、いわゆる希望という枠の中で考えていくもののそれを持っている人が今のぐらいいるかなと。

なので、先ほど皆様からいただいたコメントの一つ一つの中にすごくいろんなヒントが

あったなと思うのですが、いろんな多様な関わり方が認められるというところの中で、ではそれをどんな選択肢を示していくのかとか、これってこうしたい、ああしたいと思える種をどんなふうに広げていくといいのかなとか、そんなことを皆さんの御意見の中から、またいろんな指標を私もまとめている中で思ったところでした。全く落としどころはつけずに話をしてしまいましたけれども、そんなことを皆様からの話からも感じました。ありがとうございます。

それでは、この後引き続きまして、続いて意見交換に移っていききたいと思うのですが、今日の議題であります「一人ひとりの希望の実現について」というところなのですが、先ほど各委員の皆様から、櫻井さんからチャットもいただいてありがとうございます。佐藤さんもさっきのあれですよね、幸福度の観点でしょうか。

○佐藤柁平副部長 そうです、そうです。

○牛崎志緒部長 二分されている印象。二分されていましたか。ありがとうございます。櫻井さんからもコメントいただいていましたね、すみません、キャッチアップできていなかったです。

○櫻井陽委員 今ちょっと皆さんの話を聞いて、自分の考えをまとめていただけなので、すみません。

○牛崎志緒部長 いいんです、いいんです、ありがとうございます。

○櫻井陽委員 この後いろいろお話しできたらと思います。

○牛崎志緒部長 ぜひぜひ、ありがとうございます。うれしいです。そうですね。

「一人ひとりの希望の実現について」というところで皆さんの御発言を頂戴していきたいと思うのですが、皆様のそれぞれのお立場で補足したい点ですとか、実感として感じていらっしゃる場所、共通する部分もあろうかと思えます。ぜひちょっとここは順番を決めずに御発言いただこうかなと思うのですが、一旦櫻井さん御意見をまとめていただいたので、コメント頂戴しましょうか。いかがでしょう。

○櫻井陽委員 山影さんと吉田さんがお話しされていた、あと先ほど西條さんの資料にもあった県外に出た人の「情報との接点」みたいところは課題だなと思っていて、岩手で何ができるかというのは分からない状態で県外にいるという状況なので、もしできるのであればその方々、高校を出るまでにそういう情報を届ける仕組みをつくれなかなと思っていて、岩手県の教育委員会さんと連携して高校生が県外に出る前にライン登録を促せないかなと考えているところです。ラインによって、情報提供ができるというところで大学生の就職情報とか、Uターンの補助金の情報とか、あと仙台、東京、岩手での地域と関わるバイト、ボランティアの情報などをお届けするような仕組みができると、そういった県外に出た人との「情報との接点」というのを持てるのではないかなと思っていま

す。バイトのボランティアをやっている子とかだと、自治体の物産展の補助スタッフとか、そういうちょっと地域の商品と関わるような機会とか、生産者の人と関わるような機会にもなりますし、あとは地ビールフェスティバル、一関だとそういう大きなイベントがあるのですけれども、そういったときのボランティアの情報とか、そういう地域と関わる接触点を増やすような情報提供していくライン登録、県外に出る前にしていけたらいいのかなと思っております。

あとは、地域での起業家、活動者を増やす取組としてはKPIを、これまで起業者の人数とか、そういったところにあったのかなと思うのですが、岩手でのチャレンジ数を増やすみたいところに設定してはどうかなと思ひまして、チャレンジ数が増えると必然的に起業家も増えるみたいな部分があるかなと思ひますので、そういったKPIの設定ですとか、あとこれは話が変わりますけれども、副業を認めた企業を副業認定企業として設定して、より働きやすい会社ですよと見える化をすることで岩手でも新しい働き方が広がっているというのを認知度を上げていく取組になればかなと思ひております。この辺はちょっと山影さんも副業とか兼業とか、そういったところも広めていった方がいいのかなという話があったので、考えてみました。

あとは、高校を出るまでに地域の大人と出会う取組として、現在の課題としては地域と先生をつなぐ役割が先生の役割になっていまして、ただ先生は業務量が多いので、それがうまくできないというところが課題かなと思ひておりますので、そこに地域と生徒をつなぐようなコーディネートできる人材を配置していくことが岩手県内全域で広まっていくといいのかなと思ひております。それができている地域とできていない地域があるのかなと思ひますし、学校単位でもできていないところ、できているところがあるのかなと思うのですが、その財源とかも検討していくと、より高校を出るまでに地域の大人と出会うというところ、大人と接点を持てるという環境がつくれていくのかなと思ひております。

すみません、長くなりましたが、以上になります。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。今の櫻井さんのコメントで、反省も込めてなのですが、我々ジョブカフェいわてで、ちょっと今リンクを送ったのですが、卒業される高校生の皆様に卒業前にこのライン登録してと、岩手とつながろうラインというのをやっております、ただ、今櫻井さんがおっしゃったような様々な情報提供というところでいくと、今の櫻井さんのアイデアは非常に素晴らしいなと思ひましたので、ぜひその情報提供の中に込めたいなと思ひました。櫻井さんありがとうございます。

○櫻井陽委員 1点だけ、ジョブカフェさん、多分こちらが定住推進・雇用労働室さんがやっている取組だと思いますけれども、これを県教委さんと連携できるとよりライン登録が進むのではないかなと思ひております。

○牛崎志緒部会長 そうですね。

○櫻井陽委員 先生の促しもないと登録が進まない、結局情報が届かないみたいな取組になりそうなので、ここら辺を岩手県庁さんのほうでうまく連携をさせてもらえたらいいの

かなと思っております。

○牛崎志緒部会長 本当に先生方に何とか卒業前に頼み込んで。

○櫻井陽委員 そうですね、卒業式の日には必ず登録させるみたいな。

○牛崎志緒部会長 そうですよ。

○櫻井陽委員 ブロックしてもらっても全然いいと思いますけれども、まず登録してもらわないと情報が届けられないというところがあります。

○牛崎志緒部会長 そうですね。これ今のふるさと住民制度にもつながる話題になるのかななんて思ったりもします。ありがとうございます。

○櫻井陽委員 そうですね、はい。

○牛崎志緒部会長 あと、副業に関しては遠恋複業課なんかはずっと関わっていた佐藤さん、コメントもいただいていますけれども、どうでしょうか。

○佐藤柁平副部会長

遠恋複業課は震災復興でボランティアとかに関わっていたような人でいろんな業界、業種で活躍している県出身の方、ゆかりの方あるいは関係がないけれども、ちょっと震災を機に岩手にもっと深くコミットしたいというような方がいらっしゃって、ボランティア需要がどんどん減ってくる中で、代わりにどういう関わり方があるのかみたいなことが2010年代半ばぐらいに議論される中でちょっと出てきたプロジェクトなのですが、複業ってやりたい人は多いんですけども、遠恋複業課の立ち上げと運営をしばらくやっている中で感じているのは、岩手の企業で複業人材を受け入れることに非常にハードルが高いといますか、複業をやりたい人はいるけれども、受け入れるところは非常に少ないみたいなところが課題でもあり、遠恋複業課の事業においても、今もその課題はあるかなと思います。

そういった中で、複業人材をどう企業の戦略として生かすかみたいな、それが有益であるということはどう実感してもらおうのかというのが大きなハードルとしてあるかなと思ひまして、ここは県として取り組むべきところもあるかもしれませんが、どちらかという民間側の需要力とか、戦略とか、経営をどう考えるかというところの問題が大きいような気がしている感覚がありまして、県内の複業認定企業、そういった認定を何か出すというようなアイデアも非常に面白いなと思いますか、いろんな可能性があるのではないかなと思ひているのですが、複業人材を受け入れることの魅力とか価値みたいなところをどう民間に浸透させていくか。ただそれと同時に、複業はあくまで複業なので、過大な期待をしてもちょっとし切れない部分もあったりするので、そこが結構難しいなど、弊社でも複業人材三、四人ぐらい関わってもらっているのですが、主戦力にはなり得る場合もあれ

ばなり得ない場合の方が大きいので、どの程度期待感とか、何を目的にして複業人材を企画させるかはすごく企業経営の戦略上の結構課題等も含めて議論しなければいけない部分かなと思うので、そのハードルはありますが、可能性もありますみたいな感覚でしょうか。

○牛崎志緒部会長 そうですね、受入れ側の体制もそうですけれども、あとは副業する側のキャリアの自立というところもそこも一つありますよね。ここからいろんな働き方が多様になる上で、確実にキーワードになっていくところではありますよね。ありがとうございました。

さて、皆さん「一人ひとりの希望の実現」のところなのですが、もう一回マイクを山影さんに戻してみようかななんて思うのですけれども、先ほど「一人ひとりの希望の実現」について、すごくこの話題に踏み込んだところを山影さん整理してお話いただいたような気がするのですが、皆さんの御意見も聞いてみて今思っていच्छること何かありますか。

○山影峻矢委員 ありがとうございます。希望の実現というのは割と広義かなと思っていて、皆さんが考える希望、そして実態として成し遂げたい形、多分理想と現実違うよねというそのイメージで全然違うと思っております。その上で、多分口に出す希望、そして自分が実行する実体的な進んでいく道って多分違う中で、自分が県の施策としてどこを求めていくかということというのはすごく難しいのではないかなと思っております。すみません、抽象的な話で大変恐縮なのですが。

その中で、今まで聞いていた話の中で、すみません、先ほどの話にまた立ち戻ってしまうのですが、副業の話でちょっと私も付け加えたいなと思っておりまして、実際に企業の受入れというのは2パターンあると思っておりまして、自社の正社員が副業を行うパターン、または副業人材を自社に受け入れるパターンこの2パターンあると思ひまして、それによっても活用の仕方というのは大きく変わると思ひしております。副業の受入れということに関しては、県内企業でも結構進んできているのではないかなと思ってひます。私が見ている部分では、やはり人材の採用におけるコンサルティングの副業人材の活用ですとか、事業計画の策定ですとか、そういった要点を絞った副業人材の活用というのが昨今では増えてきているのではないかなと考へております。

進んでいないのは、自社正社員の副業の許可認可というところかなと思ひて、ここに関してはある程度県としてのガイドラインというところちょっと大げさかもしれないのですけれども、線引きというのをした方がいいかなと思ひてひまして、自社で副業を認めているよという会社というのは多分あると思ひのです。副業を認めているよという線引きとして、一般的な副業は基本的には認めていないけれども、家業がある場合のみ認めております。これって副業を認めていますよみたいな打ち出し方をしてできると思ひのですけれども、実際に入ってみて「副業できるか」と聞いたら、「いや、家業じゃないなら無理です」みたいな話をされた方というの結構聞いたことがあるので、そういった多様性を認めているかどうかみたいな線引きをしている会社をちゃんと見極めることができるかどうかというのは結構大きな指標になると思ひるので、そこを新たに県外から戻ってこようとし

ている方々に見せることができればなと考えたところです。

あと、すみません、これも繰り返しにはなるのですが、先ほど櫻井さんとかジョブカフェさんがやっていらっしゃるライン、情報発信の件ですね、とてもいいなと思っておりまして、一方で私が県外に出ていくときにはラインとかはなかったもので、当然に私が知り得なかったというのはそのとおりにかなと思うのですが、今のネット社会全てそうかもしれませんが、自分が求めている情報しか吸収できないというのがやはり大きな課題かなと思っていて、岩手県内に戻ってこようという気持ちが今ある人にしかその情報が届かないというのが一つ課題かなと考えております。そういう場合だと、やはり選択肢に入ってきてづらいというのがあると思うので、手法的な話になってしまうのですが、ラインだけではなくて様々な媒体とか手段を使って日常的に岩手の情報ですとか、働き方みたいなところを広く県外に周知できる手段というのを考えていくべきなのではないかなと感じたところです。

すみません、全て繰り返しの話になってしまって恐縮ですが、私からは以上です。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。山影さんありがとうございました。一回一回、私ははっとさせられているのですけれども、主語をどこに置くかというのが多様性が認められるときは、例えば自分になるのですけれども、多様性を認めるというところの視点だったりとかは、一回一回私も考えていかないなと思ったりしたのと、あとは日常的に選択肢に入ってきてづらい、そうなのですよ、手を伸ばして情報を得てくれる方ばかりではないというところの中で、岩手のよさ、岩手のいろんな選択肢をどう見せるかと。

あとはいかがでしょうか、どなたか今の山影さんのところ、吉田さん、山屋さんいかがでしょうか。

○吉田知世委員 希望の現実が広義であるという山影さんの御意見にすごく同意で、私も資料を拝見させていただいた中で、すごく広く薄くになってしまわないかなとちょっと思ったところがあって、もちろんこの人たちに対してはこの希望を実現させてあげたり、この人たちにはこの希望を実現させてあげたいというのは、もちろん多くの人の希望を実現するためにはすごく大事だと思うのですけれども、だからといってターゲットを絞ってやっているとヘイトが出てきてしまう可能性はもちろんあるんですけれども、希望の実現が広義だからこそ、広く浅くだと結局やったけれども、結果に結びつかない方が多くなってしまって、もったいないと思うので、だからといって何をしろというのが今御提示はできないのですけれども、この資料でいうと、私的に家族とか子育てのような家族を持つということは、でもそもそも収入や仕事が安定しないとできないから、まずは収入と仕事の方でどういうことをやっていこうというのを組み立てていってとか、あとは別軸で、教育面ではこうしていこう、では教育と仕事と収入の軸でいきつつ、第3候補ぐらいで子育て支援、家族支援をやっていこうよぐらいの優先順位ではないのですけれども、対策をしていく中での具体的なところをどんどん提示していく、やっていったほうがいいかなと、広義という言葉聞いて、私はそれをすごく思いまして、あと副業に関してもうすごく私は興味があってというか、東京にいつつ岩手のために何かしたいと思っている子、私を含めいると思うので、東京にいつつ何か岩手でできる仕事があるならばすごくやってみたいと思いましたし、そういう面での副業というのはすごく個人的には気になる場所だなと思いま

た。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。今吉田さんのおっしゃったライフプランが結構今固定化されているところも若干ある中で、どういう順番で希望というのを考えていったらいいのかと思います。

山屋さんいかがですか、今の吉田さんのコメントも含めて。

○山屋理恵委員 対象者を絞るとかそういう話もそうなのですが、私がイメージする岩手県民の皆さんとか、若者の皆さんというのは、本当にきらきらして夢を持っていたり、手堅い仕事を手にしている人たちだけではなくて、やっぱり地元の中小企業に勤めたり、あとは岩手の場合は大学の進学率は平均 40%です。首都圏とかは 70%と比べるとやはり進学率が低い。けれども、その進学した子供たちの半分以上はもう奨学金を背負って例えば社会に出てという中で働いて、奨学金を返しながらか生きていくということになると、やっぱり若者世代というのはすごく大変なのです。だけれども、若者というのはただただ支えるとか力がある強い存在ではなくて、若者も実は支援対象なのだという在り方があっていいのだと思うのです。

ですから、そういったことを考えると、そういった収入の確保のところの施策と同時に若い人たちとか、子育て世帯とか、女性たちが困ったときに何かあったら助ける仕組みとか、安心できる仕組みとか、そういう施策を充実させておくことが次に行く力になると思うのです。そこが充実させることが一番の施策だと思っているので、何かあったら助ける県とか、何かあっても大丈夫な県みたいな取組がある方が安心して一人ひとりが希望を持ってそこで暮らしていける。だから、福祉施策であるとか、子育て施策であるとかを、男女共同参画の生きにくさをみると、役割、誰でも役割を持って大きくなるわけです。最初は子供ですけれども、そのうち親になったり、例えば職業人、市民になったり、いろんな形になっていったとき、その役割によって様々なものが制限されないような、特に性別やこれまでの慣習によって制約をされないような、この男女共同施策を推進するというのはすごく重要だという認識を、どうかいま一度諸外国並みに持ってほしいし、日本はとても遅れている。特に、そして地方は、岩手も遅れています。岩手の男女共同施策は予算も何もかもが全国以下です。例えばそれを推進するための男女センターがあるということを知っているというのも全国平均は 3 割、4 割ですけれども、岩手は 1 桁台です。そういったことをもう一度見直して、一人一人の生きるを支えるのに何が必要で、岩手には何があるのか、岩手は力入れていますよと、若者だって応援する世代でもあるし、失敗しても大丈夫というような、そういうような施策をつくっていくことが重要で、それをやっていただくのが県庁とか、行政とか、各企業さんであるなどは思っていますから、どうかここをもっと大きくクローズアップしてほしい。性別だとか、地方の問題ではなくて、ちっちゃいときから私たちは擦り込まれている、男たる者こうなのだとか、女の人は働くこととは、親とは、子どもとは、というその刷り込みがどれだけ人々の力を奪っていたり、例えば男の人たちに物すごいプレッシャーを与えたり、声に出せないようになっていたり、それが実は地域の監視につながっていったり、こうあるべきというものになっていって、希望を持ってなかったり、頓挫したり、失敗することに恐れていて、一歩が出せなかったり一回何

か失敗するともう駄目だと思ったり、そして、岩手の自殺率の高さ、これがある以上、全てのことのそれが抑止力になってしまっていると思います。自殺率が高い県に行きたいと誰が思うか。では、何で自殺率が高いか。そういう声を拾うところがちゃんと充実しているかということがすごく重要で、私たちはそういう方の話とか声をいっぱい聞いている立場ですので、きらきらした人たちと一緒に、力のある人たちと一緒にその底上げをし、2つの両輪で施策をつくるのが大事で、そういう優しい県だという県だと誰もが安心して暮らしていける、チャレンジしていけると思って、子供を産んだって何とかなるさと、そうだよ、こういうのがあるもんねとか、今つながりがなくなっちゃってこういうことができるよねというようなことがあることが一番の一人一人の希望をかなえる県だと思います。

○牛崎志緒部会長 山屋さんありがとうございます。もっと聞きたいのですけれども、今山屋さんが何があっても大丈夫な県というのは、おっしゃるとおりだなと思っていました。ずっと今日の前半に遡ったときに、佐藤さんのチャットに生きやすさと、また戻りますけれども、逆を言えば生きにくさイコール過干渉であるといったことが要因としても過言ではないかなということを書いていただいていたところはありますけれども、何があっても大丈夫な県というのをどうやってつくればいいのかというの第3回でも皆さんと議論するところかなとも思うのですが。

○山屋理恵委員 自殺率のことでいっても、監視されているとみんな嫌なのですけれども、ふだんは自由にやっていたけれども、何かあったら手を差し伸べられるという視点と施策。

○牛崎志緒部会長 そうですね。

○山屋理恵委員 あとは人を忘れて排除しないとか、関わり方、それが違う関わり方になっている、監視だったり、管理だったり、そういうような在り方を変える、それは何々であるべきというものから発生している。一人一人を尊重するということの人権ということの教育が本当に薄いこと、学んでこなかったことだと思います。

○牛崎志緒部会長 ここを福祉領域として線を引いてしまうことは、全然違うことだったのだなと思いますね。ありがとうございます。

いかがでしょう、皆さんのお声も聞きたくなりました。どうぞ佐藤さんお願いします。

○佐藤柁平副部会長 山影さんとか吉田さんがおっしゃった副業の話であるとか、今山屋さんがおっしゃられた、先ほど最初の方の御発言の同質性みたいな話とか結構今の切実なコメントを伺って、何で岩手というのはこういう県だったのだろうかみたいな、別によくも悪くも、悪い意味ではなくてというか、私は農学部出身なのですけれども、農村社会的に考えていくと、例えば岩手という土地がそもそも地理的な気候風土上寒いとか、作物が育ちにくいとか、生きるのが厳しい県だったと、そもそも生命を生存させていくことに対してすごく難しい位置だったということがあって、遠野市立博物館とかに年表とかが遠野近辺の歴史があるのであるのですけれども、飢饉とかもいっぱいあって、何千人も餓死したり

とかしているわけです。村が本当に消滅するぐらい、食べられなくて人が死ぬみたいなことがあった中で、やっぱり農村社会学的にはみんなはどうやって生存するか、生命を維持するかというときに、ある一定のルールをしっかりとみんなを守った上で、みんなが同じように暮らしたり、そのルールを守ることによって、農村社会を維持したり、生き延びる、要は脱落者を出さないような場所、ゆえに同質性とか、あるいは女性なんかは特に子供を産むだけではなくて、労働力として今まで扱われてきているという、いろんな背景、歴史的な事実がある中で、みんなが生きるということに対して結構本気にならなければ生き延びられなかった、そういうような農村社会のある種宿命みたいな、そこで結構縛ったルールみたいなのがあります。同時に、それは人々を価値観的に縛るという側面と同時に、もう一つみんなで何とか生き延びようという集団としての強さみたいなところを同時に生んだ要因があるのですけれども、それが名残としてずっと引きずっているのかなと。今はよくも悪くもというか、やっぱり食べることには基本ほとんど困らなくなりつつあるというか、今逆に子供の貧困とかそういった課題もありますけれども、餓死するみたいな状態ではない中で、岩手という気候風土が形成してきたみんな同じように生きていかないともう死ぬみたいなのが今それがなくなると、その呪縛をどう解いていくかみたいなことが結構すごく重要なので、それが多分企業の多様性とか、それが随所にいろんなところに細かくあるのかなと思って、すみません、感覚的な話をしてしまって恐縮なのですけれども、そういった中で同質性から多様性にシフトしていくとか、さっき言った何があっても大丈夫な優しい県みたいな、そういった安心感みたいなところでどうアクセスできるかというのは、結構岩手という土地がずっと背負ってきたものを一回ほどいていくみたいな、すいません、そんな話をしていいのか分かりませんが。

○牛崎志緒部会長 いえいえ、歴史的背景を考えると、何があっても大丈夫な県ということに展開していくのがなかなか実はそっちに行きづらい県民性という言い方してしまっただけかもしれないけれども、でも若干腑に落ちるところはあったりしましたね。

○佐藤柁平副部会長 そうですね、それが結構価値観のベースにみんなというので、企業もこういうふうにみんなをこうするからこうしなければ駄目とか、絶対こういうプロセスを踏んでいかないと駄目だよとか、それ以外のルールは認めないみたいな、あとは今までそうしないと死ぬから、同じ統一ルールの下、地域社会を運用しないと餓死するということがずっとあったからなのかなとか、それが昭和の戦後直後ぐらいまでやっぱりあったわけですが、昭和の前半まではあったので、そこを生きていた人たちが今、後期高齢者ぐらいの世代の人たちがいて、その子供たちにもそういった価値観が多分続いてきていて、その影響を受けているけれども、時代はかなり変わっている、現役世代の人たちがそこでギャップとか苦しみみたいなものが生じてきているというような部分があるのかなという気がいたします。

○牛崎志緒部会長 多様性というのも、みんな多様性、多様性と言うけれども、本質的に行動としてそれが体現できている人というのは本当に僅かな気がしました。私も含めて思いました。

吉田さんどうですか、ここまでのコメントに補足ありませんか。

○吉田知世委員 ありがとうございます。皆さんのお話を伺っているだけで、自分の意見が分からなくなってきた、内向きのベクトルと外向きのベクトルが会話の中でごちゃごちゃに今なっている気がしていて、県内の人たちに向けてこうしてあげましょうよとか、こういう生き方をしていきましょうよなのか、今県外にいる人のために、こういう岩手にしていきましょうよの話が混在して話が進んでいるので、私の中で整理できなかったところがあり。自分の中で皆さんの意見を聞く中で整理されたので、次回社会に注目、今回は個人に注目ではあったのですけれども、多分社会の部分もお話ししてしまった部分はあったり。行き着く先が分からずに話している気がしております。今ここに終着するためにこの話をしましょうではない在り方になっていると思っております。なので、今のこの話は、目標に向かって話す私の意見ではなくて、この会議自体の話になってしまっていて大変恐縮なのですけれども、今後ここからこういう視点で考えましょうなのか、今日はこれについて話すから、こうしていきましょうと、すみません、私だけが整理できていない状況だったのかしれないのですけれども、今私が考えていたことでした。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。でも、吉田さんいいコメントくださってありがとうございます。今回第2回目、私の理解で、皆さんの理解もあったら教えてほしくて、今回の第2回目の趣旨というのが「一人ひとりの希望の実現」というのは何だろうというところで、皆さんここを発散できる場でも私はいいかなと思っていたところはあって、恐らく第3回目の希望が実現できる社会って何だろうのところ、少しゴールの方に向かう話ができるといいのかななんて思っておりました、何かそんなふうに。何でも本当に皆さんに私も気づかされる場所、たくさん、たくさん今コメントおっしゃっていただいているなと思います。

今また吉田さんから内向き、外向きというところの言語化もしていただいて、ありがとうございます。ほか吉田さん、今までのところで何かお感じになっているところ、もやもやも含めて大丈夫ですか。

○吉田知世委員 はい、一旦大丈夫です。ありがとうございます。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。私も御発言されたい方はぜひ挙手ボタンをとか言っておきながら、皆さんにお話をどんどん振っていくというこの好き勝手、大変申し訳ありませんでした。挙手ボタンどうぞ押してください。いかがでしょう。

○櫻井陽委員 挙手ボタンではないのですけれども。

○牛崎志緒部会長 いいですよ、物理的に手を挙げていただいて。どうぞ、お願いいたします。

○櫻井陽委員 吉田さんが言っていた岩手でもできるというか、岩手だからこそか分から

ないですけれども、できるというのはすごく希望と似ているかなと思ひまして、言葉としても岩手でもできるということ自体が希望なのかなとは思ひまして、それが何なのかといういろいろな考えたりもしたのですけれども、あと佐藤柊平さんがおっしゃっていた農村社会でのルールがすごくきつくて、今は食べられないという環境ではなくなってきた部分があると思うので、それを打破できるのが自分で自ら何かをつくり出すとか、ルールをぶっ壊すとか、遊びをつくるとか、そういったところが希望みたいな、希望というか、岩手でもできるという希望になるのではないかなと思ひまして、ちょっとチャット欄に自分の考えをまとめてみたのですけれども、そもそも吉田さんの視点だとなぜ岩手を出ていくのか、帰ってこないのかみたいな話がありましたし、こっち側住んでいる人間としては岩手が嫌になるというか、住みたいと思わないというのは、岩手にやりたい仕事がないというのと、岩手でやりたい遊びができないみたいな、遊びができないというのは子供視点の話ですけれども、そういう考えで、それで岩手ではできないということで県外に出ていくとか、ここの地域に住みたいと思わなくなっていくみたいな感じになるのかなと思うのですけれども、岩手でもできるという希望を持たせられるのであれば、岩手で暮らしていきたいと思えるのではないかな、もしくは岩手に戻ってきたらいいのではないかなと思ひまして、一つその要素としては仕事をつくり出せる大人もしくは遊びをつくり出せる子供が多い方がいいのかなと思ひまして、岩手でも自分でこういう仕事がないけれども、自分でつくり出せるとか、もしくはこういう遊びがないけれども、自分たちでつくり出せば遊べるよみたいな、与えられたものではなくて、自分たちでつくり出せるということが希望になっていくのではないかなと思ひまして、そういう環境をつくっていくのが岩手でもできる環境をつくるみたいな、今後の施策に落とししていくためにはそういったコンセプトみたいなところが岩手でもできるみたいな話なのですけれども、そこから展開できることはいっぱいあるのではないかなと思ひまして、大人が例えば仕事をつくり出せる環境にあるのかという問いに対してはいろんな施策が考えられると思うのですけれども、仕事の多様性とか副業が認められるみたいな話とか、そういうコンセプトみたいなものを皆さんで、これは一案ではありますけれども、皆さんでつくり出せば施策にも落とし込みやすいのかなと思ひている次第です。

○牛崎志緒部会長 すばらしい。ありがとうございます。
山屋さんどうぞ。

○山屋理恵委員 今食べられない人たちはもういないと言ったのですが、実は今の情勢でひとり親さんとかの人たちというのは一生懸命働いたとしてもケアを一人でやっているということもあってフルタイムできなくて、あと賃金が低いとかないと、やはり世帯年収が200万円とか300万円で家賃を払いと、自分が今収入があるし、家族もいる、だけれども、もしあした何かが起こって、それが全てなくなって、自分一人で子供を育てなければならなくなったとき、どうやって生きていけると、若い世代の皆さんに、子育て世代の皆さんに聞いたら、何て答えるのかなと思ひます。就労しようと思っても、ちっちゃい子いるから無理よとか、パートなのだからとか、コロナのことがあったときはシーセッション「女性不況」といって、そういう女性から真っ先に切られました。さらにステイホームとかい

って、外との関わりもと切れ、結局そういう子育て世帯とかいろんな人たちが本当につらい状況に陥ったということが実際に五、六年前におこりました。そういったことを考えていったら、子供を育てるといのはきついよとか、若くて結婚しても何かあったら、ちょっと無理だから結婚は無理だよとなっていくのです、結婚したくても、子供をたくさん持ちたいと思っても。だから、それでも大丈夫とか、一緒に考える仕組みだとか、何かがあるということが実は希望につながっていくし、じゃ、何とかなるね、頑張れるねとなることが一人ひとりの希望を支えることだと思うのです。

だからといって、財源的なことも何かあればすぐお金がないという話もよく聞こえてくるのですけれども、自己責任ではなく担保することは必要だし、その目線で仕事をつくっていく、企業が仕事として仕組みをつくっていくとか、制度をつくっていく。でも、行政も「制度」というのは全て「後追い」なのです、何かが起こってからじゃなきゃ制度というのは全部つくられないのです。

そして、何よりこんなふうに声を出せない人たちの方が多数だということです。そのことを忘れて県民がとか、岩手がとといったって、それって俺に関係ない、私に関係ない、どうせ私のことなんてとなつて、本当に投票率とか、全てのことに、あと行政への信頼にもすごくつながっているのが今の現状です。ですから、やっぱり若い人たちの取組、このような機会がもっと増えてほしいということと一緒に、生きていく現実には子育て世帯や若い女性たちが体のつくり慣習などでいろんなことで左右されていく人生しか選べないとか、そういった現実をもっと表に出していく、しかし「大丈夫よ、岩手県は」みたいなつくりをしていってほしいし、シングルファザーになったって大丈夫だよとなつて仕事と子育てと家事の両立をしていけるような仕組みを若い世代にもっと訴え、充実させてほしいなと思います。

私が話すとちょっとあちこち飛んでしまって、ごめんなさい。

○牛崎志緒部会長 そんなことないです。山屋さんがお話しされていらっしゃるのと、先ほど櫻井さんがコメントでチャットで書いていただいたことというのを分けて考えないようにするにはどうしたらいいのかなとちょっと思っていました。

○櫻井陽委員 山屋さんにすごくいいヒントをいただいたので、山屋さんがおっしゃっているとおり、食べていけない問題は確かに解決できていないというか、いろんな社会課題の中で貧困というか、そういう状況に陥っている人もいますし、そういう環境にさせているという状況もあると思うので、そこを解消していくことと、先ほど私がお伝えしたような何かチャレンジを促進していくような取組というのは分けて考えるのはちょっと難しいのですけれども、考えていかなければいけないのかなと思ひまして、成長の曲線にコンフォートゾーンとストレッチゾーンとパニックゾーンみたいなのがビジネス系の界限ではあるのですけれども、コンフォートゾーンにいないと、さっき希望のあるという話が、遊びをつくり出すとか、仕事をつくり出すみたいなどのストレッチゾーンにはいかないのかなと思うので、コンフォートゾーンをつくる取組とストレッチゾーンをつくる取組の2つがあってもいいのかなと思ったということです。パニックゾーンにいる人に対して何か創造性ある仕事をつくり出しましょうというメッセージを送っても伝わらないと思ひま

すので、そういう方がまず安心して暮らせるような環境をつくるというコンフォートゾーンみたいな取組とストレッチゾーンみたいな取組の両輪でいくと、希望のある社会というか、岩手であるのかなと思った次第です。

○牛崎志緒部会長 そうですね、この接続のところ、櫻井さんありがとうございます。いかがでしょう。お願いします。

○佐藤柁平副部会長 さっき大分飛んだ話をしてしまったのですが、今のお話を踏まえた上で、具体の総合計画にどう反映するかというところでいうと、「希望郷いわて」みたいな大きなテーマがある中で、希望の実現の仕方というのは攻めと守りではないですが、やりたいことができる県みたいな部分はやっぱり攻めの部分だとか、何があっても大丈夫な県みたいな安心感とか、ここでなら生きていけるみたいな、そういった実感を持っていたり、そういったものを保障していく守りの部分というのが両輪であるのかなと思います。なので、そういった観点が総合計画の中で出てくると希望郷というのがよりポジティブな環境にいろ、攻めれる人にとっての希望郷という部分と、あとやはりそのもっと手前といいますか、まずは生きていく、あるいは生きやすさを実現するための守り、何があっても大丈夫な県みたいなところの施策の整理みたいなのができていくと、そういった具体性がより出てくるのかなと感じたところです。

1点追加すれば、一人ひとりの希望の実現ということと、県や地域社会として人口が減っていく、あるいは人口が減っていくことに対して維持したいとか、あるいは増やしたいみたいな意見や価値観があるという部分だったり、結婚、妊娠、子育てとか、仕事、働き方といったような面で、今まず王道として取り組まなければいけない部分と、ちょっと許容していくみたいな許容力とか多様性みたいなところが多分背反する可能性があるのかなと感じておまして、そこをどう、ちょっと言い方は変かもしないですがけれども総合計画の中で、力まないみたいな。それが受け手、県民とか外にいる人たちも、要はUターンして、結婚して、子供生んで、子育てして、地元の企業で働いてほしいんでしょうみたいなのを間接的にあまり強く感じさせない、その力の抜き方みたいなものがどう成立し得るかみたいなのはちょっとあるかなと思ったりして、そんなことを考えております。

○牛崎志緒部会長 すごく共感しますね。山影さんが話されたところとも少しリンクしますよね、戻らなくてもいいじゃんというところですよ。別にそう言っていないかもしれないけれども。

山影さんどうですか。

○山影峻矢委員 今後の議論の進め方ではないのですが、今県が取り組まれている施策とか、今回の資料でも幾つか御提供いただいた部分はあると思いますが、やっぱり議論が拡散してしまう、吉田さんもさっきおっしゃっていたとおりにかなと思っておまして、私が思ったときに我々も何かためになることを発言したい、提言したいなと思っているので、求めるべき目標というか、K P Iみたいなものがあればそういったものをお示しいただいた方が我々も発言というか、御提言はしやすいのかなと考えたところです。

私もお話をいろいろ聞いている中で感じたことをちょっとつらつら話させていただいてもいいでしょうか。

○牛崎志緒部会長 はい、どうぞ。

○山影峻矢委員 生きやすさの定義のところで、改めて皆さんのお話を聞いていて思ったところで、私の大学時代、田舎から出て東京に出たときに今まであった干渉というか、人の目線みたいなどころから解放されて楽しいとか、こういう文化というのはなかなか感じなかったので、東京ってすごく楽しいなと感じた部分があったというのが本音のところでした。一方で岩手に戻ってきて、今子育てをしているという状況の中で、今はまだ3歳の子供とゼロ歳の子供がいるのですけれども、子供が外で一人で遊んだりするシーンというのはやはりあるわけです。そういった中で、例えばお隣さんというか、お向かいさんと面識が全くない場合、そしてある場合、安心感というのはどっちがあるかなといったときに、やっぱりある程度面識があったほうが多分安心がある程度得られるというところがあるかなと最近感じたところなのです。なので、過干渉という話はよくないかもしれませんが、ある程度の干渉というのはやはり地域社会、地方社会においては必要なのではないかなと。その実現も可能なのではないかなとちょっと感じたというところが最近の実体験としてあったというところです。

もう一つ、山屋さんのお話の中で、シングルマザー、シングルファザーというところでお話もありましたが、私自身共働きで子育てをしているところであるのですが、そういった中でも子供が風邪を引いたとか、病気になった、けがをしたというときに、園から呼出しをもらって、病院に連れていかなければいけないというシーンというのがありますが、やはりどちらかが行かなければいけないといったときに、双方どちらかの働きたいというそのタイミングが損なわれるケースというのはやはりあるかなと思っておりまして、そういった面においても共働き、シングルマザー、シングルファザーにかかわらず、働きたい世帯、働ける世帯というところへの支援、病児保育の支援制度であったり、そういった制度の拡充というのも個別具体の施策にはなっていますが、そういったところも重要になってくるのではないかなと感じているところでございます。

すみません、最後の最後にこんなまた議論を拡散させてしまって恐縮なのですが、ちょっと思ったところをお話しさせていただきました。

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。恐らくそうですね、今日のテーマをいただいたときに、皆さん、大きいテーマだなと思われたと思います。おそらく、事務局の意図を勝手に私の方でくみ取りますと、今日皆様からいただいた御意見一つ一つは私にとっても大変勉強になるものでしたし、いろんな気づきがこの中だけでもあったなど、この6人のだけでもあったなと思いますので、この後第3回目の議論の進め方については、また事務局とも進めていけるといいのかなと思います。一人一人の御意見、拡散は私は大歓迎だなと今回は思っていましたので、ありがとうございます。次回についてもまだ日があるわけではなくて、また事務局を介して次のテーマに向けて話を皆さんから頂戴できる準備をしていこうかなと思っておりました。

そろそろお時間が近づいてまいりましたが、いかがでしょうか。もっともっとしゃべってほしいですけども、一旦このぐらいで今日はクローズしていこうかなと思いますけれども、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○牛崎志緒部会長 ありがとうございます。私自身、皆さんちょっとオフ会しましょうと言いたいぐらいですね、この後どこかでお目にかかりたいなと思います。

では、ここまでいただいたお時間来ましたので、議事は以上とさせていただきます、進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 牛崎部会長どうもありがとうございました。

3 その他

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 議事の3、その他であります、全体を通して何かございましたら御発言お願いいたします。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 ありがとうございます。

次回第3回目の部会でありますけれども、既に皆様にはお知らせしておりますが、5月27日水曜日10時からを予定しております。よろしくをお願いいたします。

また、本日の御議論の中でもありましたが、第3回目につきましては皆様からまた様々御意見いただきながらもしっかり方向性を持った議論になるように事務局としても工夫させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

4 閉会

○菊池政策企画課特命参事兼政策課長 それでは、以上をもちまして第2回目の部会を終了いたします。どうもありがとうございました。